

■第6章

- 1) 演奏記号 (performance mark)
 - 2) 強弱記号 (dynamic mark)
 - 3) 速度標語 (tempo marking/tempo indication)
 - 4) 発想記号 (expression mark)
 - 5) アーティキュレーション (articulation)
 - 5-1) スタッカート (staccato)
 - 5-2) レガート (legato)
 - 6) 装飾音 (ornament)
 - 6-1) 前打音 (appoggiatura)
 - 6-2) 装飾記号 (ornamentation)
 - 6-3) アルペジオ (arpeggio)
 - 7) 省略記号 (abbreviation)
 - 8) オクターブ記号 (octava)
-

1) 演奏記号 (performance mark)

音楽をより表現力豊かに演奏する為には、「音の強弱」や「速度の変化」、あるいは「音をつなげたり切ったり」と、様々な変化を加えながら演奏をする事が必要です (※6-1)。それらを指示する記号の事を総称して「演奏記号」(performance mark)と言ひ、「強弱記号」や「速度標語」、「発想記号」、その他「アーティキュレーションに関する記号」などが含まれます。

2) 強弱記号 (dynamic mark)

音の強弱をあらわす記号を「強弱記号」(dynamic mark)と呼びます。それは「前後の音に対して強いか弱いか」と言った相対的な関係を表わしています。よって強弱記号で表わす音の強弱は「dB」(デシベル)や「phon」(フォン)などのように絶対的な音の量をあらわしている訳ではありません (※6-2)。

※6-1 音楽表現の三要素(独: agogik/kolorit/dynamik): 「アゴーギク」(テンポの変化)、「コロリート」(音色の変化・合唱や合奏の響きのブレンド具合)、「デュナーミク」(音量の変化)。曲を演奏する場合、これら三つの要素に変化を加える事で、より豊かに音楽表現ができる。

※6-2 楽音の「強弱」について: 「音量」(dB)は「音の量」や「音の大小」を意味し、「強弱」とは使い分ける事ができる。(例⇒強い音を小さな音量で聴く) 音の強弱は「音色」にも変化を与える。キーボードやDTMなどでは、音の強さを「ベロシティ」(velocity)と呼び、「0~127」の値で表わす事ができる。